

九条の会

秋葉区「九条の会」事務局

新津教育会館内

新潟市秋葉区善道町2-9-44

Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692

<http://9jo.iinaa.net/index.htm>

「大連立」の行きつく先は憲法改悪！ ～「九条の会」の真価が問われる～

前号(No.40)で憲法施行65年目の危機を訴えてからいくらもたたないのに、事態はいっそう深刻になっています。

暴走を支えた「大連立」

消費税増税、社会保障破壊、原発再稼働、TPP、オスプレイ……。民主党野田政権の暴走が止まりません。これほどまでに国民との約束を裏切って恥じない政権は過去にあまり例がないでしょう。暴走を支えているのが「民自公」の「大連立」です。消費税のためということが表向きの理由ですが、一連のゴタゴタはあっても結局、改憲に行きつく一過性ではない、この上なく危険で反動的な道であることをしっかり見きわめておく必要があります。

野田首相の「大連立」への認識は、自民党と共有している！

悪政の中心にいる野田首相、前原政調会長とともに、衆院選で自民党の公認が得られなかったために民主党から立候補したという経歴の持ち主です。「大連立」に抵抗があるどころか、ゆるぎない保守の権力支配の実現にはその方向しかないという認識を自民党と共有しています。

「大連立」と憲法改悪

「大連立」が改憲に結びつけば、その勢力は衆議院で390議席を超え議席占有率は80数%、改憲発議に必要な3分の2を軽く超えてしまいます。世論があるので今すぐ発議することはないにしても、改憲派がチャンス到来ととらえていることは間違いありません。竹島や尖閣諸島の領土問題も追い風になっています。

憲法審査会の動向を注視しよう！

憲法審査会は、「日本国憲法及び日本国憲法に密接に関連する基本法制について広範かつ総合的に調査を行い、憲法改正原案、日本国憲法に係る改正の発議又は国民投票に関する法律案等を審査する機関」です。憲法改正案をまとめ、発議に関する法案をまとめるところまで憲法審査会が担うことになるかもしれません。80%以上の議席をもつ「大連立」のもとで改正案がまとめられたら、大変なことになります。仮に衆参で改正案が発議されるようなことになれば、それを国民投票で否決することには大きな困難が予想されます。世論の動向も気がかりです。

世論調査で再び改憲賛成が多数に！

数年前、読売新聞をはじめとする各社の世論調査で、それまで改憲賛成が多数だったのを逆転して改憲反対が上回りました。「九条の会」の活動が力になったといわれました。

ところが最近の読売新聞の調査では、改憲賛成が再逆転しています(2011/9 調査 改憲賛成43%、反対39%。2012/3 調査 改憲賛成54%、反対30%)。まさに容易ならない事態です。領土問題で国民の意識が右にブレている時に国民投票が実施されたらどうなるでしょうか。なんとしても衆参で発議させないこと、そのためににも、今「九条の会」にはこれまで以上の国民への働きかけが求められています。

秋葉区9条の会代表委員 栗原祐一さんを偲んで

「戦争だけはしてはならない」

秋葉区9条の会・代表委員のお一人だった栗原祐一さんが、このほど亡くなられた。元県農協中央会長、新津市議会議員などを歴任され、地域の内外で活躍されていた方だった。今から4年ほど前になるが、事務局の板橋と庭田が栗原さんの自宅を訪ね、憲法9条への思いを聞いてきた。録音機を持参しなかったために、正確に「栗原さんの声」を伝えることができないのが残念である。

奥の部屋から、当時肌身離さず所持していた軍隊手帳を持ってきた。1ページ、1ページをめくりながら、7年にわたる軍歴の数々を話してくれた。昭和12年から始まった日中戦争で召集を受け、中国各地を転戦した。3度の召集を受け、最後の戦地は南方の戦線だったという。戦争の現実をいやというほど見せつけられ、多くの戦友も失い、自らも辛うじて生き残ったのだった。

最後に「北朝鮮や中国などと、これからもいろいろのことが起こるかもしれないが、どんなことがあっても戦争だけはしてはならない。命令する人は安全な所へいて、前線へ送られる兵士のことなど何も考えていない。命を落としても、どんな目にあっても責任などをとる人などいない。戦争だけはしてはならない。憲法9条は、戦争をさせないための大事な宝物だ。若い人にこのことだけは伝えたい」と話してくれた。

尖閣諸島に中国の活動家が上陸し、その対応をめぐって日本の外交が問われている。その多くが軍事的対抗をめざすもので、平和憲法を精神を生かした毅然たる外交方針になっていない。これまでアメリカ言いなり外交で済まし、独自の外交方針を持たなかったつけが回ってきている。

平和のメッセージ

秋葉区のすみずみまで響かそう、

皆でつなぐ、平和のメッセージを！

NHKスペシャル

「戦場の軍法会議

～処刑された日本兵～」を見て

板橋育夫(新町)

8月14日、NHKスペシャル「戦場の軍法会議～処刑された日本兵～」を見た。軍法会議の実態は、敗戦時、書類が焼かれたために、その真相は明らかでなかったが、当時法務官出身だった馬場東作陸軍中佐が、密かに書類を持ち帰っていたことから、その恐るべき内容が明らかになった。

67年前の太平洋戦争末期、フィリピンなどの南方戦線で補給を絶たれた日本兵は、飢えに苦しみ、食料を求めて隊を離れる者が続出した。その人たちを「逃亡罪」で拘束し、軍法会議で次々と銃殺刑にした。軍は、軍律を守るために厳罰を求め、本来であれば死刑に当たらない者まで処刑した。ある兵士の場合、「英語が堪能であり、スパイになる可能性が高い」との理由で銃殺刑にされた。

余りにも無残！無茶苦茶な裁判の実例が出てきた。中佐の日記は、軍隊の本質的な非道さを告発している。

軍法会議にかけられた兵士の数は、昭和19年に5千人、20年には1万人を超えていたというが、その実態は分かっていない。侵略の軍隊として日本兵は、中国や東南アジアの諸国民に対して残虐非道な扱いをした。それと同じように、日本兵に対しても過酷な罰を課し、人命を何とも思わない命令を下した。人と人が殺し合う戦争は、非道、残虐が常態化し、歯止めがきかない。

改めて「戦争という手段」で国際紛争を解決しようと考えてはならないと思った。下級の兵士は、戦乱の中で塗炭の苦しみを受けたが、その命令を出した責任者たちは罪を逃れ、のうのうと暮らしている。戦後、政治家となり、財界の中心となり、マスコミのリーダーとして復活していった。戦場の兵士の証言をとおして、日本はなぜ無謀の戦争を始めたのか、誰にどのような責任があるのか検証する時期に来ている。